

1. 結果

○投票率

投票率は、64.0%（受講者 264 人中 169 人が投票）でした（7月23日20時現在）。100人近くが棄権した理由を、今後考えていかなければならないでしょう。

○小選挙区

・最多得票（当選）

飯能花子が最多得票であり（84票）、野原しゅんたに8票差（4.8ポイント差）をつけての勝利でした。

・理由

それぞれを選んだ理由としては、飯能、野原ともに「教育・労働・社会保障政策について共感したから」がもっとも多かったです（飯能は38.7%（53）・野原は38.5%（40））。飯能が勝利した要因を考えると、弱者にやさしいという彼女の政策が勝利を引き寄せたと考えられます。

次に多かった選択肢も飯能、野原ともに同じでした（「コロナ対応について共感したから」（飯能は25.5%（35）・野原は31.7%（33））。

以上から、これらが今回の選挙で注目された争点であったことを示しているといえます。

○比例区

・得票順

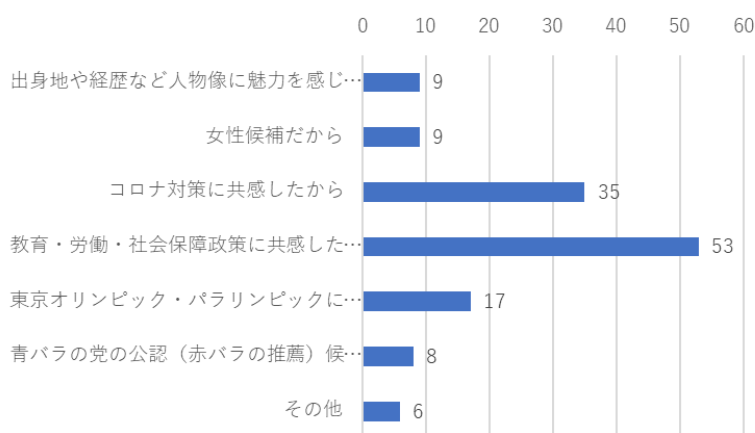
最多得票は青バラの党で72票を獲得しました（42.9%）。続くのが白バラの党で68票（40.5%）とわずか4票差でした。赤バラの党は伸び悩み、23票（13.7%）に終わりました。

・理由

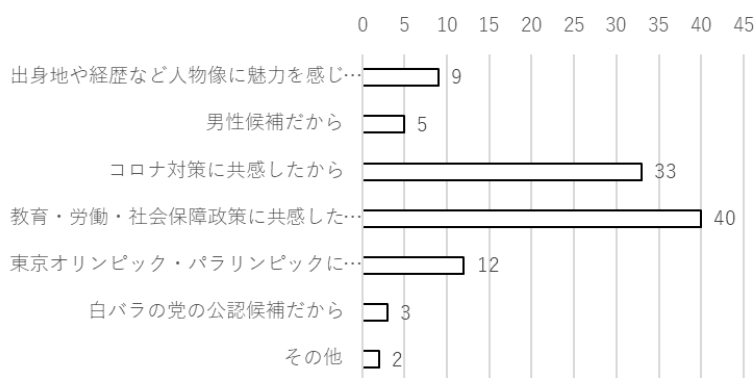
それぞれを選んだ理由としては、青バラの党に投票した人は「教育・労働・社会保障政策について共感したから」がもっと

氏名	公認	得票数	得票率
飯能花子	青バラ（赤バラ推薦）	84	50.0%
野原しゅんた	白バラ	76	45.2%
	「選べない」または「すべてに反対」	8	4.8%
	計	168	100.0%

飯能花子への投票理由



野原しゅんたへの投票理由



政党	得票数	得票率
青バラの党	72	42.9%
白バラの党	68	40.5%
赤バラの党	23	13.7%
「選べない」または「すべてに反対」	5	3.0%
計	168	100.0%

も多く、次いで「経済政策（消費税、ベーシック・インカムを含む）に共感したから」が多かったです。青バラの党の勝因は、小選挙区と同じく、人にやさしい政治が評価された結果といえます。

他方、白バラの党に投票した理由ですが、「教育・労働・社会保障政策について共感したから」が多く、「コロナ対応について共感したから」が続いています。白バラの党を支持した人は比較的コロナ対策を支持していた人が多かったようです。

以上あげられた争点が、小選挙区と同じく、重要なものであったといえるでしょう。

## 2. 分析

### ○女性と投票

東京都議選が7月4日に投開票されましたが、41人の女性が当選し、都議会定数127人の32%を占めることとなりました。これは、過去最高の割合です。女性の政治参加、女性の投票行動が注目を集めています。今回の模擬選挙ではどうだったのでしょうか。

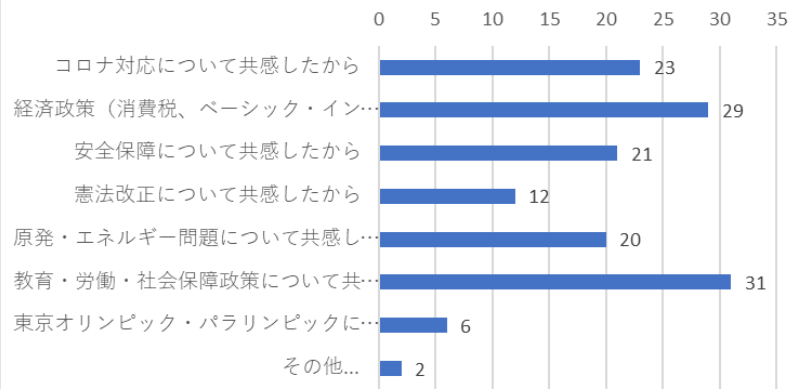
#### ・女性候補者

今回は、小選挙区の青バラの党候補者が飯能花子という女性でした。実際に、彼女に投票した人のうち、「女性候補だから」という理由をあげた人は9人（投票者の10.7%）でした。ほとんどは、女性候補者だから投票したわけではなさそうです。

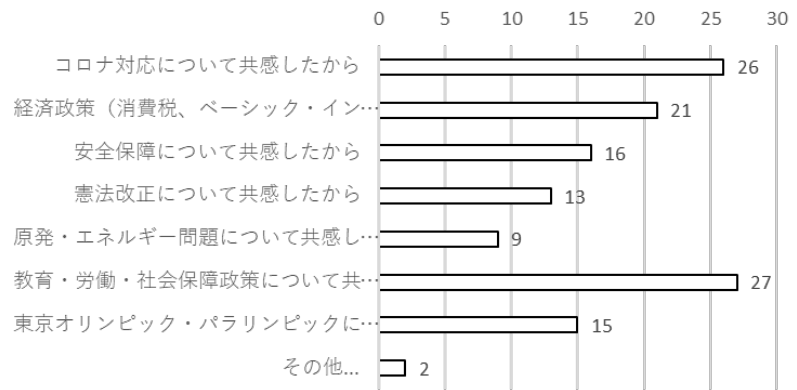
#### ・女性票の行方

小選挙区において、女性は女性候補者に多く投票したのでしょうか。実際の結果は右表です。女性のほうが、男性よりも女性候補者の飯能花子に投票している割合が高いことが分かります。

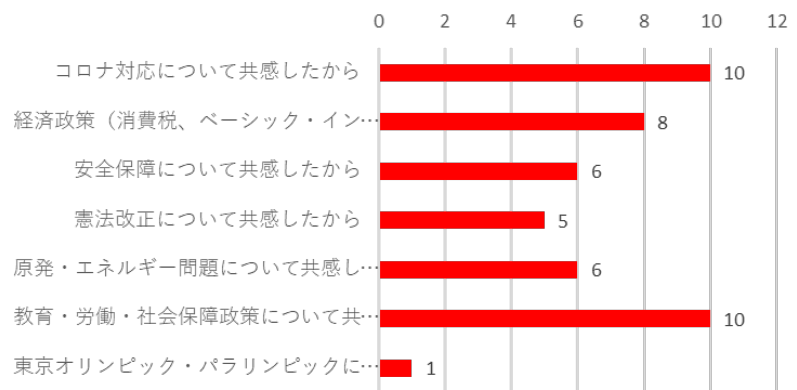
青バラの党への投票理由



白バラの党への投票理由



赤バラの党への投票理由



	飯能花子	野原しゅんた	「選べない」または「すべてに反対」
女	13 (59.1%)	9 (40.9%)	0 (0.0%)
男	71 (48.6%)	67 (45.9%)	8 (5.8%)

※難しいお話ですが、統計的に分析してみると（カイ二乗検定）、男女のあいだで有意な差はありませんでした（p 値=0.421）。つまり、統計的には女性と男性で投票先に違いはないという結果でした。

## ○分割投票

### ・概要

有権者が小選挙区と比例区で異なる政党（とその候補者）に投票することを「分割投票」といいますが、今回の模擬選挙でそれがどれだけあったかをまとめたのが右表です。

投票先として、おおむね小選挙区の候補者と政党は一致していましたが、

比例区 投票先	白バラの党	小選挙区投票先	
		飯能花子	野原しゅんた
		11 (16.2%)	12 (16.7%)
			8 (34.8%)

青バラの党と白バラの党に投票した人の 16%ほどは他党の候補者に投票していることが分かります。比例区で赤バラの党に投票した人のうち 35%ほどが白バラの党の野原に投票しているのは、意外な結果でした。

### ・なぜ分割投票がおこなわれたのか？① 候補者の経歴・人物像

では、なぜ分割投票がおこなわれたのかを考えてみましょう。考えられるのは、ある政党の考えは支持するが、候補者に魅力があるので小選挙区では支持しないほうの政党の候補者に投票した、というものです。まず、小選挙区で飯能花子（青バラ）に投票し、比例で白バラの党に投票した人は 11 人いましたが、そのうち「出身地や経歴など人物像に魅力を感じたから」飯能に投票した人は 1 人もいませんでした。次に、小選挙区で野原しゅんた（白バラ）に投票し、比例で青バラの党もしくは赤バラの党に投票した人は 20 人いましたが、「出身地や経歴など人物像に魅力を感じたから」野原に投票した人は 3 人いました。野原に対してのみ、個人への評価が分割投票を生んだ可能性が考えられます。

### ・なぜ分割投票がおこなわれたのか？② 性別の影響

飯能花子候補が女性であったので、白バラの党を支持していたとしても、女性候補を支持する人もしくは女性が、飯能に投票したのではないかと考えられます。見ていきましょう。まず、小選挙区で飯能花子（青バラ）に投票し、比例で白バラの党に投票した 11 人のうち、「女性候補だから」飯能に投票した人は 1 人もいませんでした。

比例で白バラの党に投票した人のうち

また、右表のように、比例区で白バラの党に投票した人のなかで比較してみると、女性が優先的に飯能花子に投票しているということもないようです。

	比例で白バラの党に投票した人のうち		「選べない」 または「すべてに反対」
	飯能花子	野原しゅんた	
女	1 (11.1%)	8 (88.9%)	0 (0.0%)
男	10 (17.0%)	48 (81.3%)	1 (1.7%)

以上をふまえると、候補者および皆さんの属性からは分割投票の理由を強く見出せませんでした。皆さんは、純粋にそれぞれの政策をみて投票したというのが正しいのかもしれませんが。

## ○「選べない」「すべてに反対」

今回は、選択肢に「選べない」「すべてに反対」を入れていましたが、それらを選択した人は、小選挙区では 8 人（4.8%）、比例区では 5 人（3.0%）いました。

理由としては、まず小選挙区では「どれも良いところはあり、決めきれなかった」「どれも納得できないから」などの意見がありました。それぞれの政策を支持するには決め手に欠けたというのが理由とし

て大きいようです。次に、比例区では「どの党も主張していることが正しいと思ったから」「正直どれも実践できると思えないから」という意見もありましたが、ほかには「三つの党の良い所を集めればよりよくなるから」などの意見がありました。各政党の主張の差別化とその評価が難しかったのかもしれない。

### ○理解度と関心度

今回、最後に、模擬選挙全体の内容についての理解度と関心度を聞きました。それぞれ見ていきましょう。

理解度については、4段階評価でしたが、「よく理解できた」が13.7%、「理解できた」が67.9%で、合わせて81.6%とほとんどの人は理解できていたようです。

関心度についても4段階評価でしたが、「とても興味を持った」が14.9%、「興味を持った」が72.6%で、合わせて87.5%と、こちらも興味をもつことができたようです。

この2つがどういう関係にあるかも表してみました。下の表がそれを示しています。最も多かったのは、「理解でき

た」と「興味を持った」の組み合わせで97人(57.7%)いました。

※統計的には、この2つの質問のあいだの相関係数は0.45であり、ある程度の相関を見出せます。またカイ

二乗検定の結果、有意になっていますので(p=0.000)、この2つの質問のあいだに関連性はあるということになります。

○理解度	人数	割合
よく理解できた	23	13.7%
理解できた	114	67.9%
あまり理解できなかった	29	17.3%
理解できなかった	2	1.2%

○関心度	人数	割合
とても興味をもった	25	14.9%
興味をもった	122	72.6%
興味をもてなかった	19	11.3%
まったく興味をもてなかった	2	1.2%

	とても興味 をもった	興味をも った	興味をも てな かった	まったく興 味をも てな かった
よく理解できた	13 (7.7%)	10 (6.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
理解できた	9 (5.4%)	97 (57.7%)	7 (4.2%)	1 (0.6%)
あまり理解できなかった	3 (1.8%)	14 (8.3%)	11 (6.6%)	1 (0.6%)
理解できなかった	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)

### 3. 振り返りと展望

最後に振り返りをし、今後の政治への展望を述べて終わりとします。今回の選挙結果をみると、皆さんは大きな経済政策や外交よりも、より身近な教育等の政策やコロナ対応を重視していました。政治を身近なこととしてとらえることが、政治参加の一步だと思えます。これを機に、今年おこなわれる総選挙でも投票所に足を運んでみてほしいです。ただし、最初にあげたように棄権者が3分の1であることを考えると、まずは関心を持ってもらうことが大事なのだと考えられます。

今後についてですが、現在、国政では、自民・公明の与党に対抗すべく、立憲民主・社会民主に共産が加わる「野党共闘」の動きが活発化しています。今回は白バラの党が自民党に、青バラの党が立憲民主党に、そして赤バラの党が共産党に類似した政党でした。よって、今回の模擬選挙を総選挙の「前哨戦」と捉えるならば、来るべき選挙での野党の躍進が予測されます。